

感染症対策を行ったボランティア活動のポイント！

新型コロナウイルス感染症の影響で生活様式が大きく変わり、ボランティア活動においても、十分な感染症対策を行った上での活動が求められています。

ウィルスに感染しない・させないために必要なことを自身のみならず関係する方々も理解した上で、活動していくことが大切ではないでしょうか。

今回は、国（厚生労働省）が示す「新しい生活様式（密閉・密集・密接を回避）」などに基づいた参考となる感染症対策と、活動の形は変わっても変わらぬ想いで活動しているボランティア団体の様子（裏面に掲載）をご紹介します。

○活動を行う前のポイント

- ・体調不良（発熱、咳、だるさなど）がある方は活動を自粛しましょう。
- ・咳エチケットのため、マスクを着用しましょう。（熱中症にも注意！）
- ・アルコール消毒液を準備し、活動場所の出入りの際は、手指のアルコール消毒をしましょう。
- ・よく触れる部分を消毒しましょう。
- ・当日の活動者や参加者の名簿をつくり連絡手段などを把握しましょう。



○活動中のポイント

- ・定期的な換気をしましょう。（30分に1回程度）
 - ・人と人との間隔を2m（最低1m）空けて活動しましょう。
 - ・活動場所における定員の半数以下の人数で活動しましょう。
 - ・会話をするときは、向き合わないで会話しましょう。
 - ・歌唱や呼気が激しくなる運動はやめましょう。
 - ・マイボトルを持参し、飲み物を他の方へ提供するのは避けましょう。
 - ・食事については、人との間隔を2m空け、食事の場所を分散するなどし、飛沫防止のために会話は控えて食事をしましょう。
- 公共施設で活動している団体については施設の利用条件に基づき対応しましょう。



○活動を行った後のポイント

- ・そうじや後片付けを行う際は、マスクや手袋の着用を徹底しましょう。終了後は手洗いなどを行いましょう。
- ・鼻水や唾液などが付いたゴミは、ビニール袋に入れて密閉して縛りましょう。
- ・不特定多数が触れる場所や活動で使用した物品などを消毒しましょう。
- ・家に帰ったら手や顔を洗い、極力すぐに着替えてシャワーを浴びましょう。



活動の形は変わっても 変わらぬ思いやいを地域(まち)の人へ

経験を活かして家でもできる活動へ（布の絵本ボランティアの会）

布の絵本ボランティアの会では、これまで布の絵本や布の遊具などを作り、保育及び障がい児、高齢者施設などへ貸出・寄贈する活動をした 21 を拠点に行っていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、今までのように集まって会の活動を行うことができなくなるほか、市内の福祉活動の財源となる赤い羽根共同募金の募金活動も縮小してしまうのではないかと懸念が会の中であり、会としても何か力になれないか考えていました。

そんな中、全国的にマスクの入手が困難となり、布マスクの需要が出てきたことから、会員の裁縫技術を活かした布マスク作りを行い、登別市共同募金委員会（以下：市共募）で寄付商品として取り扱ってもらうことで、募金活動の力になれるのではないかと、布マスクの寄付商品をした 21 に置いてもらうことで、マスクが必要な方が寄付を通して、手にすることが出来るのではないかと。そんなアイデアが会員からあり、会員それぞれが自宅で布マスクを作り、市共募へ寄贈する活動を始めました。

布マスク作りがキッカケで、市共募では、社協事務所前に「布マスク募金」が設置され、募金額（子ども用 100 円、大人用 200 円）に応じて布マスクをお渡しする取り組みが始まりました。（※集まった募金は赤い羽根共同募金として寄付されます。）

布マスク募金は、した 21 を利用される方を中心に活用されており、現在も布の絵本ボランティアの活動で布マスクを提供いただいています。



集えなくても繋がり続ける活動へ（WAT の会登別子ども食堂）

WAT の会登別子ども食堂（以下：WAT の会）では、これまで地域の子どもや多世代（高齢者や主婦、高校生など）が食を通して交流できる地域の集いの場を登別中央福音教会（中央町）を拠点に行っていました。

しかし、新型コロナウイルス感染症の流行による緊急事態宣言などから、これまでのような集いの場を開くことが難しくなっていました。

緊急事態宣言が解除され、地域でも徐々に活動が始まった頃、会では、「いつも参加してくれている人達との繋がりを絶やさないためにも活動を再開していこう」とそんな意見がありましたが、現段階では、集うことでの感染リスクがあることから別の手段を考える必要がありました。

そんな中、緊急事態宣言による学校休校に伴い、給食で利用するはずだった牛乳をホクレンより無償提供いただけることとなったため、市内の学校給食として提供されているパンを会で購入し、牛乳とパンのセットを 120 セット準備。これまで集いの場に参加していた方との繋がりを絶やさないためにも、準備したセットをお渡しする形で、6 月 27 日に 3 密を避けながら屋外でテントを張り実施しました。

当日は、生憎の雨でしたが、集いの場の参加者へセットを渡しながら、何気ない会話を通して近況の共有ができ、参加者からも「美味しそう」と喜ばれました。また、集いの場に参加したことのない独居高齢者の方にも民生委員さんを通じてお渡し、活動を通してこれまで無かった新しい繋がりも生まれました。

今回の活動をふりかえって、WAT の会では「今後は、今回の活動のように私達がコロナ禍の状況を受け入れ、今の状況にあった活動の形を一人ではなく会員同士でアイデアを出し合いながら活動を続けていきたい」と今後の活動について話されていました。

